

報告と交流

広がる学校図書館の可能性 —これまでとこれから

講演 福家めぐみ

(東京都稲城市立稲城第一小学校 学校司書)

報告 青山かおり (越谷市 学校司書)

報告 高野幸子 (所沢市立椿峰小学校 校長)

学校司書法制化を受けて、報告と交流をテーマに、東京都稲城市の学校司書である福家先生に学校図書館や学校司書についてお話しいただくとともに、県内からは越谷市の学校司書の青山先生、所沢市立椿峰小学校の高野校長先生にも取り組み等お話しいただきました。その後、参加者の方々から先生方への質問や、それぞれの地域での取り組みの報告がありました。

■講演 福家めぐみ氏

稲城市の学校司書配置への道

学校図書館と私のスタートは、我が子が通う小学校でのおはなし会でした。PTAサークルの読み聞かせボランティアグループを立ち上げ、朝の読み聞かせや放課後の図書室開館を行いました。さらに、我が子が進学した中学校で環境整備や開館業務をボランティアで行っていると、選書まで頼まれるようになりました。そこで「司書教諭」「司書」と図書館に関する資格を取得しました。ボランティアとして関わることで、学校図書館の現状に疑問をもったことがきっかけとなったのです。

その頃、稲城市に中央図書館建設の計画があり、仲間を集め、「稲城の図書館サポーターみんなのとしょかん」を発足させました。2003年に稲城市では、緊急雇用対策事業として、図書整理員が全校に配置されました。しかし「地域の教育力がある」との理由で、継



続はしませんでした。この時は、ボランティアとしての活動が、学校司書配置へ逆効果になっているのではないかと考えさせられました。

その後、学校図書館活性化検討会等の学校図書館に直接的な委員会だけでなく、市長期総合計画審議会等の市民公募枠へ応募し、委員として内側から学校図書館の充実を訴えていきました。このような場で発言することは記録に残り、後々力になってくれます。またパブリックコメントで一般の方の意見が多く提出されたこと、専任司書の常時配置を求める要望書の提出等が、2011年の実現に向けて動き出すことにつながったのです。

配置後の成果と今後の課題

学校司書が毎日いることで、学校図書館の環境整備や蔵書管理が充実し、児童・生徒の学校図書館利用率が上がるとともに貸出冊数が大幅に増えたり、授業における学校図書館活用の機会が増えたりといった成果があげられます。一方、学校図書館支援センターのような体制がなく、研修の機会が少ないことが課題です。また、先生方との信頼関係、とりわけ管理職の理解を得ることが不可欠であり、環境づくりや教材研究等やればやるほど勤務時間内では終わらないのが現状です。

おわりに

どんな学校図書館にしていくのかビジョンを持つことが大切です。それは、学校司書だ

けが考えるのではなく、学校全体や、市全体で考えていくべきことだと思います。学校、教育委員会、市長、保護者、ボランティア等々それぞれの立場で協力してこそ良い方向に進むのです。自分の自治体の状況や近隣の状況を知り、状況を動かせる人を味方にしましょう。行政のシステムを理解すると、一足飛びには結果が出ないことがわかります。対立ではなく、ポジティブで具体的な提案をし、いろいろな人とつながっていきましょう。

■報告1 越谷市 青山かおり氏

越谷市では、平成22年に学校図書館支援員として3名が配置されました。小学校8校、中学校4校の巡回勤務です。平成23年には、学校図書館支援員7名と子ども読書推進員という名称で7名が配置されました。子ども読書推進員は小学校のほかにも市立図書館の勤務もありました。平成24年に学校図書館支援員として12名となりましたが、このときから司書または司書補の資格が必要となりました。平成25年にはそれまで臨時職員としての採用だったのが、市の非常勤職員となりました。これにより、双方の申し出がない限り2年毎の自動更新となりました。毎年のように勤務校が変わってしまう問題が解決され、同じ学校に継続して勤務できるようになりました。賃金や勤務時間といった交渉ごとには情報が必要で、良い方向に進んでいくためには周りとのつながりが大切です。

現在越谷市では、「学校司書」という名称で14名が一人3~4校巡回勤務しています。巡回も悪いことばかりではなく、特に初心者には各校を比較して見られることがよい点です。

今後の課題は、授業支援ができるようスキルアップを図ること、司書教諭や他校と連携した研修が必要なことです。また、長くボランティアとしてかかわっている方々とうまく協力していくことも大切だと思います。



■報告2 所沢市 高野幸子氏

所沢市では、平成6年より中学校に司書補助員の配置が始まりました。中学校からというのは生徒指導上の理由もあったようです。小学校への配置は平成23年からで、現在11校（内6校は兼務）に配置されています。

司書補助員さんは、経験20年以上のベテランの方から初めての方まで様々で、司書免許や教員免許等の資格の有無も様々といった、多様な状況の方が勤務していました。そこで、平成21年から司書補助員の研修会を市の教育委員会で行うことにしました。参加者は、学校司書補助員、教育委員会の指導主事、所沢図書館の館長と児童奉仕担当者でしたが、一番の目的は、司書補助員同士の横のつながりをつくることでした。運営のノウハウを教えあってスキルアップを図ることもできるし、異動があっても前任者に気軽に相談することもできます。市教委として、このような研修体制のシステム化を図り、今年度は、研修会を3回実施しました。

校長として学校司書に期待する役割としては、①授業でのT.T（ティーム・ティーチング）②情報センターとして、授業に必要な資料や情報の提供をし、資料を生きたものにする。③ボランティアの方と学校図書館とのコーディネート。④蔵書の傾向を把握し、購入計画を立案。⑤他の学校図書館を訪問して情報を得ること。⑥教職員との連携強化を図ることが挙げられます。

関連機関との連携も視野に、学校図書館の充実と子供の読書活動推進のために共につながっていきましょう。

こども読書活動交流集会

■質問・質問に答えて

Q 川越市 図書整理員

稲城市ではコンピュータ化されていないのに予約はどのように管理しているのですか。

A (福家) 図書館の機能の一つを知ってもらいたいと、私物のパソコンを使って、エクセルで管理しています。

Q 川越市 図書整理員

10時～3時半の勤務時間で、先生方とコミュニケーションをとる時間がないのですが、先生方にどうアプローチしたらよいでしょう。

A (高野) 司書教諭への業務報告の中や、給食や昼休みの時間を活用するとよいと思います。また、教科書を見せてもらい、自分から使えるような資料を提供していったらどうでしょうか。

教職員へのアプローチとして、①新学期には各学年で学校図書館の利用の仕方について学級指導を行う時間があるので、その際に各学級に入り、顔を覚えてもらう。②職員会議に参加する。(出勤時間を遅らせるなど勤務時間の調整が必要ですが) ③図書の時間に読み聞かせをする。(担任の先生にお勧めの本を選んでもらって紹介すると、先生・子供との距離が縮まる) ④読み聞かせのボランティアとともに各クラスを回る。⑤給食の時間に、放送を使ったプログラムを作る。など、管理職の理解を得て、いろいろなことができるのではないかと思います。

■情報交換

春日部市 学校図書館を考える会

平成 22 年に市内小中学校長・司書教諭にアンケートと学校訪問を行い、平成 23 年にその結果を配布しました。平成 24 年には春日部市議に学校図書館の充実・学校司書配置について要請し、議会にて予算化が採択されました。平成 26 年に 4 校兼務ではありますが、小学校 24 校に学校司書が 6 名配置され

ました。各校平等にという市の意向です。今年度は、市の施設で展示等を行い、活動を市民に知ってもらうとともに、市議員や市の職員にも説明をしました。

さいたま市 学校司書

全校に学校司書が配置されていて、週 4 日 6 時間勤務です。継続のための試験はありますが、基本的に複数年勤務することが可能で、他の地域より恵まれた環境であると思います。課題は、教職員と協働での授業づくり、年間計画の作成など、学校図書館運営にもっと参加することです。

白岡市 市議員

現在、白岡市では生涯学習センターを計画中ですが、子供たちが徒歩や自転車で行ける距離に公共図書館がなく、学校図書館が子供たちにとって本と出合う重要な場所となっています。市では、ボランティアによる読み聞かせの他に、公共図書館の職員が各学校を巡回して図書室の整理を行っています。

石川県白山市では、全校に学校司書が配置され、学校図書館支援センターが学校図書館同士のつながりを支えているそうです。石川県や富山県では、学校司書の配置率が 9 割を超えていますが、そうした地域に学ぶことがあるのではないかと思います。

3 人の講師の先生それぞれから「つながり」が大切というお話をいただきました。分科会終了後も会場の各所で参加者のみなさんの交流が続いていました。

(記録 松村庸子)

※自治体によって「学校司書」相当職の職名は各々異なりますが、ここでは学校司書と総称しています。